

只ニハ非ズ、物ニ狂フ也ケリト、轉ガリテ穢ガリケリ、

〔台記〕仁平二年正月廿六日壬戌、今日於東三條再行大饗、朱器初度戊日也、中略居飯、註尊者把笏目余、

藤原賴長余已下依次立立七七箸、先立七於外方、後立七於內方、了一同食之、中略次羞温汁、註辨已上座居了、資信朝臣

拔箸、不抜把笏伺尊者氣色、尊者拔箸、不抜把笏目余、即一同食之、

〔古今著聞集十八〕中の院右大臣、鳥羽殿へ參られたりけるに、さけをなんす、められけるに、御前にさかなもの有けり、右府のまへにもませくだ物すへられたり、其間に院御笛にて、胡飲酒をふかせおはしましたりけるに、右府柑子を箸にさして祓にして、ひさうの手をつくしてまはれたりける、いと興有てぞ侍ける、

〔源平盛衰記二十六〕行尊琴絃附靜信箸事

京極源大納言雅俊卿、亭ニテ講行、給ケルニ、導師ハ如覺院ノ靜信法印ニゾオハシケル、諸僧座ニ著テ僧供行ハントシケレ共、導師アマリニ遅カリケレバ待侘テ、終ニ僧膳行ケル、中間ニ法印來リ給、遲參ヲ惡ミテ僧中ニ導師ノ箸ヲ取隱ス、法印著座シテ高坏ヲ見レバ箸ナシ、暫打案ジテ、法印懷ヨリ箸ヲ取出シテ物ヲ拾ヒ食ケリ、何ノ料ニ持給ケル箸ゾト、上下惡マヌ者ナシ、誠ニ優ナル用意ニハアラネドモ、遠慮賢クシテ角用意有ケルガ、智慧深シテ、時ニ臨テ化現シ給フカ、此人ノ事ハサモ有ナン、

箸工人

〔人倫訓蒙圖彙五〕箸師 四條坊門にこれをつくる、上を數寄屋箸といふ、白木、杉、丸箸、八角箸、品々

あり、又塗箸所々にあり、

箸屋

〔日本永代藏三〕煎じやう常とはかはる問藥

何とぞ只取事をと、氣を付心を碎中に、屋形々々に行て殿作り仕舞、大工屋根葺、おのがひとつれに二百三百人、中略跡より番匠童に鉋屑木をかんなくづこつばかつがせけるに、可惜檜の木切々をちて捨るをか